

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	育成したい資質・能力を明確化し、そのための工夫した手立てを考え実践することで、確かな学力の向上を図る。また、ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを深めていく。	中間評価		最終評価	
		児童が主体的に学習に取り組めるように、学習のめあてやまとめを分かりやすく提示していく。学習内容によって、学習形態を工夫し、ペア活動やグループ活動など互いに学び合う場を作るようにしていく。				
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 文のねじれや誤字などがあり、自分の思いを文章で表現することが難しい。</p> <p>学 漢字、ひらがななど、字形を意識して書くことに個人差が見られる。また定着しているとは言い難い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、ひらがな、カタカナの表記について、字形を意識して正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 「、」や「。」を正しく使って、伝えたいことを言葉で表現する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体のドリルやデジタルドリルを活用し、字形を意識して正しい書き順で書けるように定着を図る。 行事などの感想文や手紙などを書く取組を通して、表現する力を伸ばす。 		
	算数	<p>学 計算はできるが、図や文章を用いて自分の考えを表現する力が十分に身に付いているとは言い難い。</p> <p>学 計算の速さや正確さに個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する力を伸ばしていく。 10の合成分解の理解を確実に身に付け、繰り返し繰り返り下がりなど基礎的な計算力が身に付くように繰り返し指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間自力解決の時間を設定する。多様な考え方を共有しながら、具体物や絵、図、言葉などを用いて、自分の考えを表現する力の定着を図る。 東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルなどを授業や家庭学習でも活用し、繰り返し取り組みながら定着を図る。 		
3	国語	<p>学 自分の考えをもつことはできるが、それを適切な言葉や文での表現が難しい。</p> <p>調 話し手が知らせたいことを落とさないように聞くことが難しい。</p> <p>調 文章を書くこと全般において平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を正確に読む力を養う必要がある。 自分の考えを文章で相手に伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、宿題等で音読に取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、人物の気持ちを押さえながら読むようにする。 大切な部分を聞き落とさないように、メモをとる習慣を付ける。 デジタルドリルの活用や漢字テストを定期的に行って定着を図るとともに、語彙を増やしていく。 		
	算数	<p>調 ほとんどの項目が、区の平均と同等程度かそれ以下である。特に、長さ・かさの問題においては平均を大きく下回っている。</p> <p>学 問題を正しく読み取って問題を解くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題で、読み取ったことを基に正しく立式することに課題がある。 量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 九九が覚えられていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図を使いながら、繰り返し文章問題に取り組んでいく。 算数的な活動を充実させ、正確な量感を身に付けられるようにする。 デジタルドリルやプリントを活用しながら、九九を定期的に確認する。 		
4	国語	<p>学 想像したり伝えたりしたいという思いは強いが、適切な言葉や文での表現が難しいこともある。</p> <p>学 文章表現で主述のねじれが見られる。</p> <p>調 話を聞きながら要点をつかむことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の大体は理解しているが、正確に読む力を伸ばす必要がある。 自分の考えの大事な部分を相手に伝える力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、宿題等で音読に取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、叙述を押さえながら読むようにする。 大切な部分を聞き落とさないように、メモをとる習慣を付ける。 デジタルドリルの活用や漢字テストを定期的に行って定着を図るとともに、語彙を増やしていく。 		
	算数	<p>学 文章問題の読み取りが難しい。</p> <p>調 新宿区学力定着度調査のどの項目も平均より高い。その中でも、「大きい数」の項目が低く、苦手な領域であることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数が大きくなるほど、計算のミスが多くなる。 量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 九九が覚えられていない、コンパスでうまく円を描けない児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確に計算することを意識しながら、繰り返し問題に取り組んでいく。 算数的な活動を充実させ、正確な量感を身に付けられるようにする。 デジタルドリルを活用しながら九九やコンパスの使い方を定期的に確認する。 		

5	国語	<p>調書くことについては、区の平均より約 11 ポイント上回っている。一方で、漢字は区の平均より 5 ポイント低く、一層の定着を図る必要がある。</p> <p>学互いの話を聞いて、共通点や相違点を見付けることに関して課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく覚え、書く力、読む力を伸ばす必要がある。 「話す聞く」では、話の内容が明確になるように話し、話の目的や意図に応じて、内容をとらえる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習については、タブレット端末を利用するだけでなく、ワークシートで書いたり、ミニテストを実施したりして、定着を図る。 話し合いの目的を明確にし、内容の共通点と相違点を考えながら聞く取組を行う。 		
	算数	<p>調総じて区の平均より上回っている。観点別に見ると、主体的に学習に取り組む態度が他の観点より低かった。また、小数は区の平均を 2 ポイント上回っているにとどまった。</p> <p>学自分の考えをノートに書く際に、公式を使って数式だけで解く児童が見られる。図や言葉を使って表す力をより伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに、今後の学習や生活に活用する態度を養う必要がある。 小数の構成について十分な理解ができていない部分があり、小数の位の位置の移り方を指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもち、次時の学習に意欲をもたせるため、毎時間、学習の振り返りを書く取組を行う。 小数のかけ算、わり算の単元では、小数をかけること、わることの意味を抑え、計算の仕方を図や式を用いて考える力を養い、東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルを家庭学習で週 1 回課すなどして、児童の習熟を図る。 		
6	国語	<p>調領域「読むこと」の正答率は、新宿区学力定着度調査の区の平均を 1.4 ポイント上回った。特に「物語の内容を読み取る」の設問では区の平均を 3 ポイント近く上回り、力を付けていることが分かった。</p> <p>学校内研究の取組の成果として、読む力が定着しているといえる。その一方で、筆者の考えや自分の考え、物語文の感想を書く力が不足している。一問一答の発問には積極的に答えられるが、主観的な考えを求める発問に対して消極的な姿勢が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 領域「書くこと」に於いては、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を 6 ポイント近く下回り、特に「かべ新聞を書く」内容では、10 ポイント以上下回っている。内容を整理してまとめて書く力を伸ばしていく。 言葉の特徴や使い方に関する力がまだ十分に身に付いていない。言葉にこだわった指導が必要である。また、行間を読み取らせたり、思考が深まるような発問を精選したりする指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して自分の考えをもち、根拠を明確に示しながら、書いていく時間を十分に設定していく。授業後にめあてに対する振り返りを三行程度書かせ、適宜評価することで書く力を育てていく。書くことが苦手の児童には、キーワードをつなげて書くように指導する。 小单元ごとに短文で言語事項に関わる学習に取り組む時間を設けていく。また、小单元ごとに漢字の小テストを行い、定着を図る。定着が不十分なものに関しては、東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルを活用して習熟を図る。 		
	算数	<p>調領域別では、「数と計算」「図形」は新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っている。特に、図形の領域に於いては、およそ 3 ポイント区の平均を上回っている。その一方で、「小数のかけ算・わり算」については 1.3 ポイント下回っている。</p> <p>学授業で自分の考えをもち、ノートに表現する力が優れている。他のやり方を模索したり、友達の考えからよりよい考え方に気づき、自分の考えを深めたりする力をより伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「小数のかけ算・わり算」の問題でミスが目立つ。九九の間違い、繰り上がり忘れなど、初歩的なミスが多い。速さよりも正確さに重点をおいた指導を図っていく。 文章題の立式の説明を図や言葉を用いて分かりやすくまとめることができるが、言葉で説明する力が不足している。思考を整理して言葉で表現する力を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃のワークテストやプリント、デジタルドリルなどでの取組で、問題の内容を正確に読み取り、解答後の見直しを励行する。 図などを活用しながら、立式の根拠を説明する機会を設け、正しく立式できる力を付けていく。 		
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 友達と音を合わせたり、楽器を演奏したりすることが好きで、楽しく取り組んでいる児童が多い。 楽譜の読み方などの知識や楽器の技能の定着に個人差が見られ、自信が持てず苦手意識をもっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能の定着に個人差が見られ、自分の演奏や表現に自信をもてない児童や、苦手意識をもっている児童が見られる。基本的な知識や楽器の技能が定着するように指導していく必要がある。 与えられた楽譜や課題をただ演奏したり取り組んだりするだけになってしまい、受け身になっている児童もいる。音楽を特徴付けている要素を手掛かりに、「こうしたい」と思いをもって表現を工夫する力や、「もっとこうしよう」と、試行錯誤しながらよりよい表現を目指していく力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにする。 音楽を特徴づけている要素と曲想との関わりについて感じ取ることができるように、鑑賞の学習の中で、意見を交流して音楽の言葉を耕したり、視点を明確にして聴かせたりする。また、友達の表現や考えに触れる時間を設け、互いによいところを見付けたり、よりよい表現にするために試行錯誤したりできるようにする。 		
	図工	<ul style="list-style-type: none"> 作品をつくったり描いたりする活動が好きで楽しく取り組んでいる児童が多い。 手を挙げて生き生きと発表をする児童も多い中、自分の活動や発言に自信をもてず周りの様子を見てから活動する児童も一定数いる。 活動内容に対し、完成のイメージをもてずに早く終わらせようとしてしまう児童がいる一方で時間がかかりすぎてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する児童に任せて自分で考えずに受け身になっている児童もいる。 授業の全体計画と個別の計画、ねらいを意識できずに、活動している児童もいる。 活動の振り返りの内容が少なかったり、ねらいに即して書いていなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手する児童ばかりでなく、指名して発言させたり、ワークシートなどから多くの意見を取り上げたりする。 板書を使って授業の全体計画やねらい、当日の流れを示し、必ず最初に確認できるようにする。 振り返りのポイントや書き方の例を示す。また、書く前に数名に発言させることでポイントを理解できるようにする。 		

<p style="text-align: center;">特 支</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は第1学年～第6学年まで全ての学年の児童がまなびの教室で楽しくコミュニケーション活動に取り組んでいる。 ・小集団指導は主に1～3年生を対象としており、個別指導は全員が受けている。指導の主軸としては自立活動の区分から心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションを相互に関連させて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションや集団活動で相互的にかかわる体験的学習を必要とする児童が見られる。 ・体の使い方や姿勢の保持に関する専門的な指導を必要としている。 ・指示を聞き取ることから行動を遂行するまでの流れについて経験的学習を積み重ねることが必要とされている。 ・読み書き計算を題材とした基礎的な課題にじっくりと習熟を重ねるとよい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルの課題を行ったり、少人数での活動を行ったりしてコミュニケーション能力を高め、在籍学級での生活をよりよいものとしていく。 ・感覚統合の運動を行う。 ・個の特性に応じた認知トレーニングを行ったり、教材を使用した学習を行ったりする。 ・できたこと等を具体的に褒め、自信をもたせる。 ・個のつまずきに基づき、課題をスモールステップで行い、できた経験を積み、読む書く活動への抵抗感を軽減させていく。 ・スモールステップで課題に取り組ませ、できた経験を積みせたり、自信をもてるようにできたこと等を具体的に褒めたりする。 		
--	---	--	---	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。